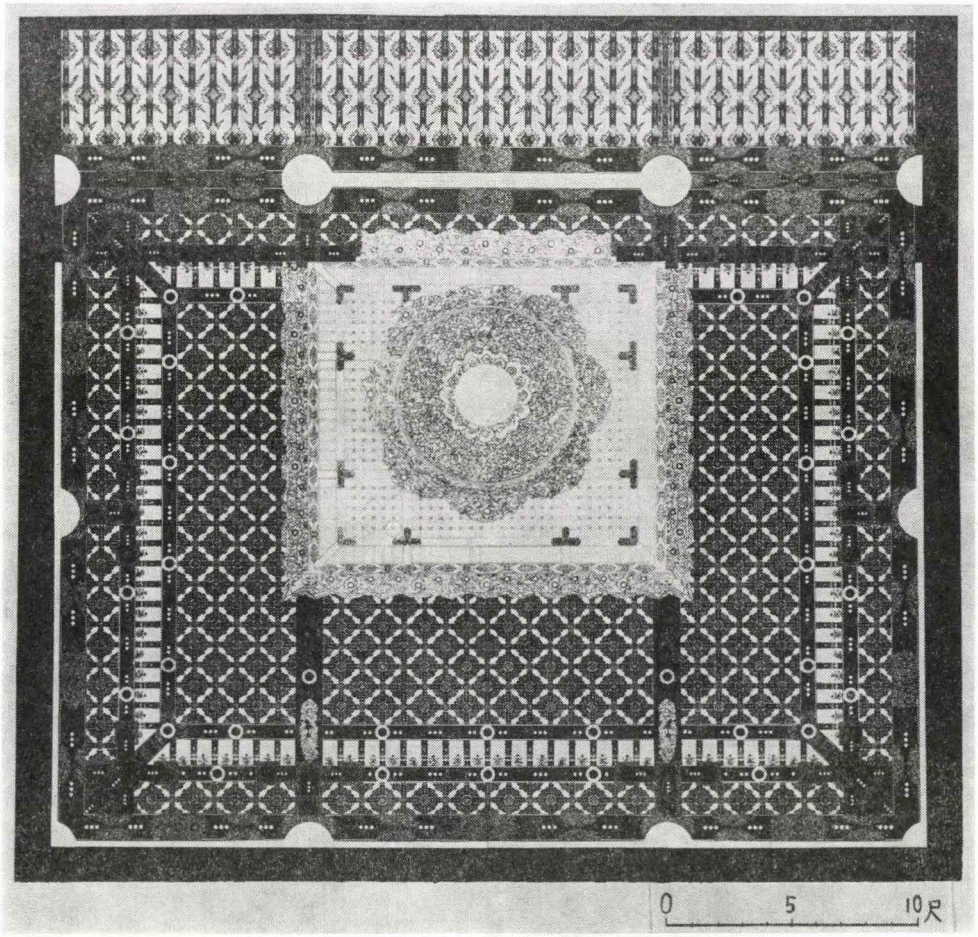
1984. 10. 15

京大広報

No. 279

京都大学広報委員会



平等院鳳凰堂天井見上（復元図）—関連記事本文560ページ—

目　　次

＜紹介＞

教養部　図学教室…… 560

日　誌…… 561

＜随想＞

自慢にならない話　　名誉教授　平野　實…… 562

＜紹　介＞

教　養　部
図　学　教　室

本図学教室の歴史をふりかえると，第三高等学校の前身である大阪中学校に溯る。その当時は自在画・用器画という科目で，図画が教えられていた。明治15年以来同中学校の教官であった故守住勇魚氏（第三高等学校創立後同校助教授，後に嘱託として断続的に図画科を担当）の教科書『図画範本』（明治16年）を目にする機会がないので正確なところはわからないが，『大阪中学校一覧』（明治16～17年）には投影画法・透視画法等の名が見えるところから判断すると，後の第三高等学校の図画科の内容も大略大阪中学校のそれを引継ぐものであったと思われる。

第三高等学校当時の科目「図画」の内容は「高等学校ニ関スル勅令及省令告示」（大正７年）によると，「図画ハ形体ヲ正確且自由ニ画ク能力ヲ得シムルヲ以テ要旨トス。図画ハ自在画，平面幾何画，立体幾何画ヲ授クヘシ」とある。

明治32年より昭和６年まで，図画科の教官であった故福田　正雄氏（明治34年以降教授）の教科書『高等図学』（昭和３年）の構成をみると，その具体的内容については，上記告示の精神に即していることがわかる。

その後，昭和24年の学制改革に伴って第三高等学校の図画科教室（画学教室とも図学教室とも呼称）は，京都大学分校の図学教室に衣替えし，現在の基盤となっている。これが本教室の沿革である。

大雑把にいって，文字・数式・図式に書下すことがそうであるように，私共は形体を正確に画くということで，思考を客観化することができる。思考を図形に固定することで，それを礎にして思考をさらに発展させ精密化させうるし，他者はそれを介して図形に込められた思考を了解することができる。図学はそういった内容に係わる極く基礎的な能力の養成を狙って教養課程に置かれている。一方，どこに根本原因があるのか定かではないが，新入生諸君の三次元図形についての知識と能力は明らかに年々低下しつつある。しかし，形体を正しく理解することは形体を正確に画くことであるという面が厳然とあるのであって，私共の責任を痛感させられる今日である。

とはいえ，単に形体を画くということで理解できる図形の内容には限界があるのも事実である。そこで私共は，ここ数年教科書の内容の再検討と新しい教科書作りを始めている。その改革の主要点は３つある。まず投象という操作を変換の観点から規定し直して図形の取扱いをより厳密にすること，図法幾何学を確立したパリ理工科大学校創設者ガスパール・モンジュ（1746～1818年）が晩年そうしたように，解析幾何学的取扱いを再導入すること，そして実社会での図形処理の状況を配慮して，軸測投象・中心投象（透視図，図参照）といった単面投象の比重を高めることである。

形体を理解するのは何のためかと問うこと，つまり形体を生きた現実の場面の中に置き直し

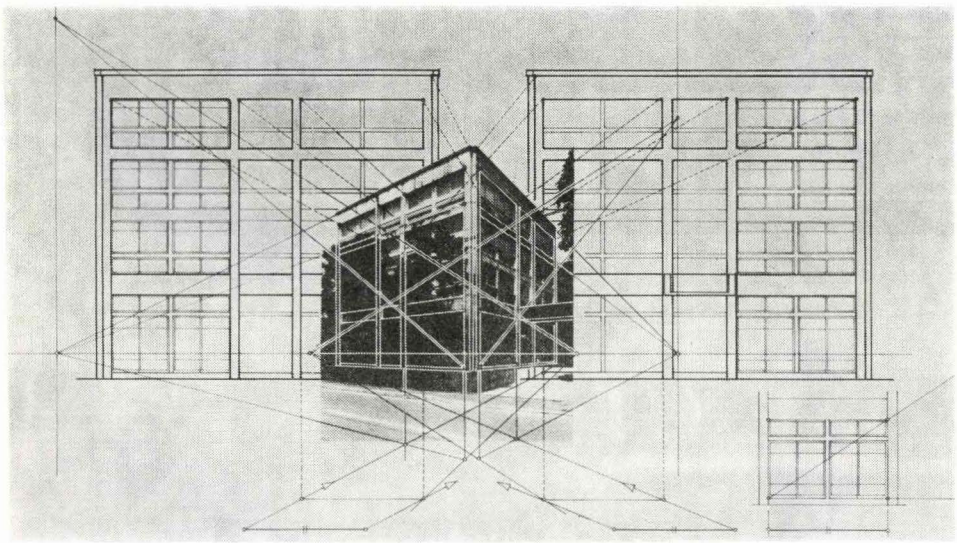


図　建築写真からの立面図の再構成（京都大学職員会館）

てその在り方を問うこと，それは図学の刷新においても常に変らぬ源泉である。昭和16年第三高等学校に就任された故池田　総一郎教授以来，本教室では建築学出身の教官が続き，そこに自ずと一つの伝統が形成された。つまり，建築の場面の中で形体について問うという伝統である。ただ，ここでいう建築的空間とは，現象学が教える生活世界としての空間に対応する広さと深さで理解されようとしていることを付言しておきたい。

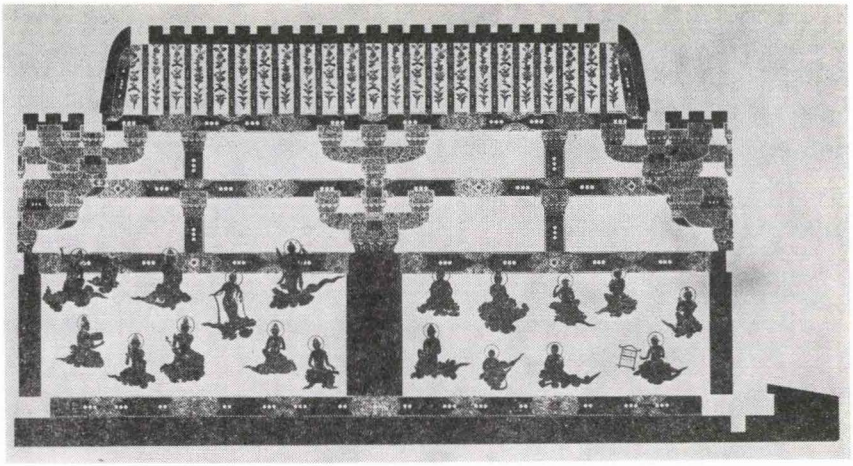


写真　平等院鳳凰堂南小壁（復元図）

現在，本教室のスタッフは，すまいの空間ということに関心をはらいながら，建築的空間に係わる広い問題領域に目を配って多様な研究活動をすすめている。

1)すまいとは，人が一人で，家族で，共同体で，或ることの実現をめざしてこの世にある在り方であるといった了解に基づく既存のすまいの文献と実地調査（京都周辺の村落，市街地及び沖縄本島周辺村落）による研究及び近い将来のすまいの計画・設計。

2)仏教思想を通してみた平安仏教建築の空間研究。表紙写真（平等院鳳凰堂天井見上）や写真（平等院鳳凰堂南小壁）は，この研究の一環として作成された復元図である。それらは，解体修理時に作成された図面と建築装飾についての部分的な復元図を元にして，新たな調査と写真撮影によるデータを使って作成された（原図縮尺は十分の一）。

3)近代建築理論の思想的母胎を，近代建築家の建築理論書の考察と作品解釈を通じて，空間論の立場から問うこと。

これらの研究成果はまた，一般教養としての図学を目指して近年設けられた「一般図学」という講義に反映されるという形をとっている。

（教養部）

日　　誌

（1984年9月1日～9月30日）

9月5日　同和問題委員会
12日　国際交流委員会
19日　安全委員会
20日　フィリピン共和国 Philippines 大学 Edgardo J. Angara 総長来学，総長及び関係教官と懇談並びに学内施設見学
22日　フランス共和国国民議会 Louis Melmaz 議長来学，総長及び関係教官と懇談
25日　評議会
26日　学位授与式
〃　中華人民共和国華中工学院 朱九思 院長来学，総長及び関係教官と懇談並びに学内施設見学
27日　ポルトガル共和国大学長団（Porto 大学 Luis Oliveira Ramos 学長外9名）来学，総長及び関係教官と懇談並びに学内施設見学
28日　防火委員会